第６回分科会活動報告

日　時：２０１１年１２月　２日（金）
場　所：東京工科大学蒲田キャンパス
出席者：３３名
記録者：平石　泰介（東海大学）

１．配付資料

１）２０１１年度第６回第二分科会プログラム
２）２０１１年度第二分科会出欠名簿
３）「教室ＩＣＴ設備の管理と運用について」（株式会社内田洋行紹介資料）
４）第６回アンケート集計結果
５）「フィンランド教育事情視察」（フィンランド教育事情視察実施報告資料）
６）懇親会会場のご案内

２．研究活動内容

１）全体会　１３時００分～１３時１０分

（１）運営委員長より開催挨拶
（２）東京工科大学ネットワークセンター長小川様より開催校挨拶
（３）事務局より次年度テーマ告知・キャンパスウォッチング掲載写真協力依頼を連絡

２）紹介「教室情報設備の管理と運用」　１３時１０分～１４時１０分

株式会社内田洋行　東日本大学営業部ＩＣＴ１課長　小林氏

株式会社内田洋行は１９１０年中国大連で創業、創業１００年を超える企業となった。現在の事業内容は、オフィス関連事業や教育関連事業、情報関連事業を中心に展開しており、教育分野においては、学部学科開設における支援やＩＣＴ環境のデザイン・構築支援、初等教育の教材教具販売を行っている。

電子教科書元年と呼ばれる２００９年以来、学校ＩＣＴ環境整備事業の補正予算により小中高等学校における校務用・教育用ＰＣの整備や校内ＬＡＮの整備が急速に進んでいる。教育ＰＣは６．４人/台、普通教室のＬＡＮ整備率は約８０％、電子黒板は全校設置している現状であり、教員に対しても約９８％のＰＣ普及率となっている。

総務省は東・西日本の協働教育プラットフォーム（教育クラウド）を核としたＩＣＴ環境の構築により、デジタル教材やポータサイト、ＩＣＴサポート等を一元的に提供し、フューチャースクールのテストケースを全国で１０校の公立小学校で進めている。タブレットＰＣやインタラクティブ・ホワイトボード等を用いた授業の展開や、ＩＣＴ支援員による授業支援サポート体制も確立している。約１０年後にはこういった環境で学習した生徒が大学へ入学してくる時代に入ると予想され、教育の情報化に対応する必要性に迫られると提言された。

授業で使用するＡＶ機器の故障率を軽減するためにプロジェクタを例に紹介され、定期的なフィルター清掃を実施すること、頻繁な電源の入切を避けること、ブラウザ上で全プロジェク

タの稼働状況を管理することができるソフトの導入などが紹介された。また、プリンタにおいては給紙部から排出部まで用紙がほぼ真っ直ぐに進むストレートパス型のものや、紙詰まりを解消しやすいシンプルな内部構造のものを選定すべきである。

内田洋行の試験的な取り組みや観点から、電子黒板とＰＣを連携させたＥＶＥＲＮＯＴＥ、教室内のＡＶ機器をブラウザの操作画面で制御できるＷｅｂアプリケーションのｃｏｄｅｍａｒｉ、グループワーク等でマルチスクリーン環境を実現できるＷｉｖｉａなど、今までのＩＣＴ環境では物理的や操作的に制限が多かった問題を解決し、教室の空間利用に自由度を高めることで授業や学習スタイルの変化に対応できる商品を提供していることが紹介された。

３）討議１（座長：福森（産業能率大学）記録者：仲井（千葉工業大学））

１４時１０分～１４時４５分

テーマ：「教室情報設備を適切に管理し、より効果的な運用をするための方策とは」

（１）質問１・２・４　トラブルの内容・対応部署

授業中の機器トラブルについて対応する部署はどの大学においても教務系の部署、若しくは情報系の部署が対応するとの回答が多かった。

・学内備品（プロジェクタなど）と教員の持ち込み機材（PC など）はメーカーや設定（周波数、W数）の差異によって映らない場合がある。

・新しいものを導入すると性能は向上するが多機能すぎて、使いこなせない教員が出てくる。授業用として単純な機能かつタフな製品をメーカー側に望みたい。

・講義室によって備品を購入した年度やメーカーが統一されていないため、操作方法が異なり混乱を招きがちである。

（２）質問３　トラブルの対応方法について

軽度のトラブル以外は基本的に教室変更で対応する大学が大半を占めた。なお、その後の対処については各メーカーに修理を依頼するが、一部の大学では業者と常駐保守を契約し、メーカーや製品に依存されない対応を行っている例が提示された。

（３）質問５　定期点検について

大半の大学で定期点検を実施しており、頻度としては各長期休暇中に行うと回答した大学が主であった。

（４）その他　ブルーレイへディスクの対応について

ブルーレイディスクへの対応については大半の大学が対応を行っていないとの回答があった。

＜対応済みの大学の例＞

・常設機の予備として可搬式のプレーヤーを導入

・ファイナライズの有無やディスクの区別（DVD　or　ブルーレイ）によるトラブルがあるとのこと

４）討議２（座長：千葉（関東学院大学）記録者：仲井（千葉工業大学））

１４時５５分～１５時３５分

テーマ：「危機管理と事業継続－震災後の対応に関して－」

（１）質問 6　震災後の AV 機器の安全確保について

どの大学も震災後に改めて対策は取っていないとのことだった。

（２）質問 7　危機管理マニュアルの作成，防災訓練の実施など

危機管理マニュアルについては震災後に作成もしくは変更を行った大学が多かった。避難訓練については毎年実施しているが一部の建物に限定した訓練を行う大学が多いとの回答を得た。

・教職員だけでなく、学生も一緒に訓練を行う大学があった。

・部署毎にマニュアルを作成するのではなく、『人』毎に災害時の対応を決めておく大学もあった。

（３）質問 8　ホームページの運用方法について

学外に設置している大学と学内に設置している大学が半数に分かれた。外部にサーバーを設置している大学は震災より以前にサーバーを移転しており、震災を受けてからその様な動きを取った大学は少なかった。

・計画停電により学内サーバーを停止せざるを得ない状況について、クレームがあった大学もあった。

（４）質問 9　学生・教職員の安否確認について

ホームページやポータルシステムを利用する大学が主で、メールや電話による安否確認も併用された。また震災を受けて安否確認システムを導入する大学が多く見られた。

５）討議３（座長：石田（立正大学）記録者：仲井（千葉工業大学））

１５時３５分～１６時０５分

テーマ：「今年度の振り返りと次年度活動について」

（１）質問 10　開催回数について（今年度 6 回）

概ね開催回数は適切であり，5～6 回が好ましいとの方向を得た。

（２）質問 11　開催場所について

近年、開催場所として関西地方が連続したため、北陸や東北といった地域が挙げられた。また、特に地方にはこだわらず、金沢工業大学など取り組み内容に独自性がある大学の見学を行いたいとの意見が挙げられた。

（３）質問 13　今年度の内容で有益であったと感じる内容

東海大学のチャレンジセンターに関する公演と合同研修会での内容（ワールドカフェセミナー、危機管理ワークショップ）が有益であったとの回答が多く寄せられた。

（４）質問 14～16　運営方法などの改善点、次年度での希望テーマ等

人数を分けてグループ討議を行うことで意見が活性化するのではないかとの意見が挙げられた。

６）第７回海外セミナー「フィンランド教育事情視察」実施報告

１６時０５分～１６時２０分

立正大学情報メディアセンター　大崎情報システム課　石田氏

２０１１年9月５日（月）～１１日（日）の日程で行われた本セミナーは、近年では上海や香港、韓国といったアジア諸国が、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）が行う世界統一学力テスト（ＰＩＳＡ）において世界トップクラス成績を挙げている中、学歴社会ではない中でＰＩＳＡ上位の成績を挙げているフィンランドの教育形態を学び、教育現場の実情と先端ＩＣＴ事情の視察を目的として実施された。

フィンランドの教育システムは、基礎教育（小中学校）９年間を経て高等学校と職業学校に進路が分かれることや、いずれを卒業した後も大学へ入学できること、大学卒業時は修士の学位を得ること、これらの教育機関は例え留学生でも全て無料で教育が提供されることなどが特徴であり、生徒や学生個々に応じた教育システムを選択できることで日本と違って「横並びの概念」がなく、進路選択の幅が広い。また、授業料が掛からない教育システムを支えるのは国民が教育に対して先行投資している文化が根付いているからである。

９年制義務教育学校（クオッパヌン総合学校）では、全国統一の学生カルテ「ヴィルマシステム」について、成績や生徒記録に活用している現状、生徒の多様化に対応した環境を整えていることが紹介された。

職業学校は国が定めた資格を修得するための学校で、１５歳で経験する見習い精度では、学校と職場が契約し、８０％を現場で学ぶことができる。

大学はアーノルト大学・ヘルシンキ大学を視察し、大学が力を入れるアドミッションサービスのレクチャーを受けた。学びと成功を与える環境づくりを国家プロジェクトとして実践しており、初年次教育に注力している現状が紹介された。

市立公立図書館（セッロ図書館）は、「知識と経験」の両方を提供することをミッションとしており、ショッピングセンターの真ん中にあるような、コミュニティーセンターとして図書館が存在している。読解力が優れているといわれているフィンランド人の原点がここにあり、読書のみならず市民の「居間」として図書館が存在している環境であることが紹介された。

決して豊かではないフィンランドが教育大国としての地位を確立している背景には、教育に対しての確固たる「決意」があるためだと紹介された。

７）施設紹介と見学　東京工科大学蒲田キャンパス内　１６時３０分～１７時００分

以　上